

住民の健康を支える

櫻井 郁美（掛川市保健予防課 保健師）

保健師の役割

掛川市には、現在約30名の保健師があり妊娠期から高齢者まで幅広い世代を対象に、それぞれの分野に分かれ活動している。

私は、現在、成人保健分野を担当しており、成人保健分野では、ポピュレーションアプローチとして、健康講演会の企画、健康教室、健康相談の実施、がん検診等の企画運営、保健活動推進委員会や食生活推進委員の団体の運営を行っている。

私は保健師の経験はまだまだ浅く、日々保健師の専門性について、模索している最中ではあるが、私なりに見えてきた保健師の活動で重要な要素は以下の点である。

- ①住民のニーズに合わせた活動を行うための時代を読む力
- ②ノーマルな視点と専門家としての視点を併せもつ柔軟性
- ③人と人をつなぐ力
- ④地域に出ていくフットワーク
- ⑤専門家としての知識とそれを伝えるスキルの習得

以上のことことが重要だと考える。

現代は情報化社会で、マスコミやインターネットを利用することで、自分の知りたい情報は手に入りやすい時代である。そんな中、地域の保健師ならではの関わりは、個別性である。地域や対象者に合わせた関わりができる強みとし、地域全体と個、双方に関わることが保健師としての醍醐味だと感じている。

また、訪問活動も保健師の特権の一つである。訪問することで、実際に生活の場を目にすることで多くの情報が得られ、また、対象者の生活の場へこちらから出向いていくことで、普段の様子により近い状態で関わることができる。個を見る最大のチャンスが訪問活動にある。保健師はそのチャンスを十分に發揮し、個から全体、全体から個を見て把握していく力が必要となる。

まとめ

保健師の活動は多岐に渡って行われており、広い視野を持った関わり、住民を取り巻く健康問題に対応するスキル・専門性を必要とする。常に住民のニーズや経済、環境、個々の思いに目を向け更新していく必要がある。住民一人一人がより自分らしい人生を送れるよう、健康という角度からサポートしていくことが保健師の重要な役割となる。